

令和7年度 第2回船橋市環境審議会における 各議題の資料に関する御質問等に対する回答

議題3. 第2次生物多様性ふなばし戦略の策定のスケジュールについて

質問等 ①

【斎藤委員】

スケジュールは問題ないと思いますが、内容が多いため臨時の会議も場合によっては開催しても良いと思います。

回答

現スケジュールにおいても、会議の開催頻度が高めのため、現在のところ、臨時の会議を開催する考えはございません。審議会開催後に資料の内容等について御意見を伺いながら、丁寧に進めてまいりたいと考えています。

質問等 ②

【副島委員】

審議会は全て対面になりますでしょうか。あるいは書面による場合もありますでしょうか。船橋市地域工業団体連合会、南習志野工業団地協議会も役員改選の年度になりますので、担当が変更になる可能性がございますが、その辺りは、商工振興課工業係のご担当者様との相談となるかと思えます。

回答

基本、対面での開催を考えておりますが、オンラインでの御参加を御希望する場合は、申し出ていただければ対応いたします。また、役員改選により御担当者様に変更となる可能性につきましても、承知いたしました。

議題4. 第2次生物多様性ふなばし戦略の策定方針(案)について

(1)資料 4-1:リーディングプロジェクトについて

質問等 ③

【阿部副委員長】

資料 4-1 の 3 ページ「リーディングプロジェクト③」において、「ふなばし市民力発見サイト」の活用を推進する旨の記載がありますが、4 ページ以降の「実績」および「今後の方向性」には、具体的な記載が見られません。本件に関するこれまでの具体的な活動内容や現在の達成状況について、教えていただけますでしょうか。

回答

これまでの活動実績として、登録ユーザーを対象とした講習会の開催や個別の操作サポートの実施に加え、令和 5 年 12 月から開始した「ふなばし市民活動ボランティアスタートアップ」の拡充や周知を図り、市民と団体のマッチングを推進してきました。今後は、利用促進を目的としたアンケートを実施し、サイトの活性化を図るとともに、さらなる改善に向けた施策を検討することを予定しています。

質問等 ④

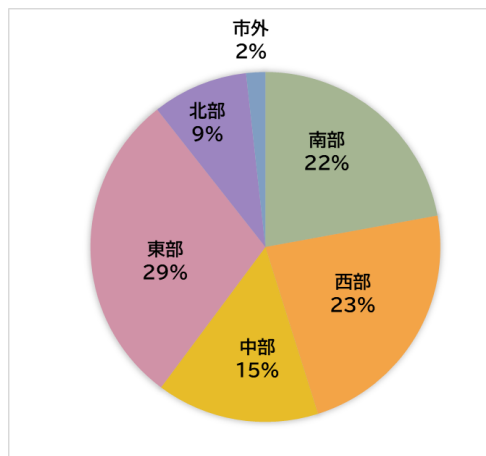
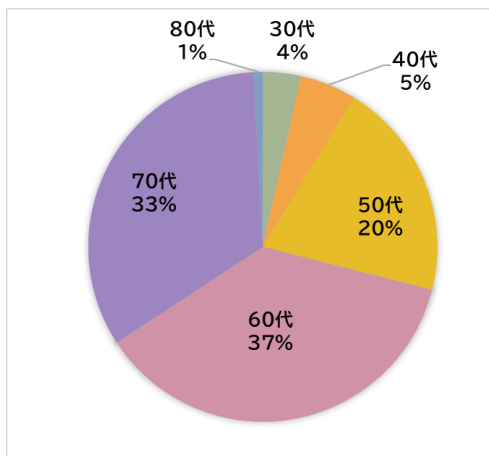
【副島委員】

「リーディングプロジェクト③」に関して「ふなばしエコカレッジ」が活動の柱になるものと捉えています。しかし、エコカレッジの募集要項と修了要件を見ますと修了まで参加できる方はかなり限定されるのではないかと思います。

リーダーや後継者育成という観点ではある程度カリキュラムを履修することは理解しますが、修了生に職業や年齢層、地域に偏りがいないか、資料があれば開示は可能でしょうか。

回答

第 4 期までのエコカレッジ修了生の属性は、下記のとおりとなっております。なお、職業については伺っておりませんので、データはございません。



(2)資料 4-1:現状と課題について

質問等 ⑤

【斎藤委員】

資料 4-1 の 8 ページ「気候変動による生態系の影響」について、自然環境モニタリングで三番瀬の生き物調査（鳥類、魚類、海草、底生生物調査）を実施し、干潟等の気候変動による影響を把握した上で、三番瀬の生き物保護対策を検討してはどうでしょうか。

回答

船橋市自然環境調査検討委員会からの提言においても、三番瀬の環境についてのモニタリングの必要性が指摘されていることも踏まえ、第 2 次生物多様性ふなばし戦略においては三番瀬の環境モニタリングを位置付け、様々な主体と連携しながら、底生動物等の個体数を確認するモニタリングを実施することを考えています。詳細については、今後検討します。

(3)資料 4-3:生物多様性の保全上重要な場所について

質問等 ⑥

【斎藤委員】

今回の船橋市自然環境調査において、資料 4-3 の 20 ページの「(2) 市域における生物多様性の保全上重要な場所」として環境省から選定されている「三番瀬 (St. 18)」に関する調査内容が記載されておりませんでした。その理由として、31 ページの「(3) 今後のモニタリングについて」では、鳥類以外の個体数把握が不十分であり、一定以上の信頼度をもって環境を把握することができなかつた旨が記載されています。しかしながら、三番瀬に関しては、環境省や千葉県(生活部自然保護課)、千葉県中央博物館、学識経験者、市民団体、ふなばし環境学習館などが、データや写真を持っています。つきましては、これらの諸団体と連携して市環境政策課を事務局としたプロジェクトチームを結成し、現在の指標種（40 種）の選定を見直した上で、今後調査を進めることを提案します。

回答

船橋市自然環境調査検討委員会からの提言においても、三番瀬の環境についてのモニタリングの必要性が指摘されていることも踏まえ、第 2 次生物多様性ふなばし戦略においては三番瀬の環境モニタリングを位置付け、様々な主体と連携しながら、底生動物等の個体数を確認するモニタリングを実施することを考えています。詳細については、今後検討します。

なお、指標種については、三番瀬に限らず谷津田環境などの指標環境や、温暖化の指標となるかなど様々な要素を勘案してバランスよく選定したいと考えております。

質問等 ⑦

【林委員】

生物多様性の保全上重要な場所を設定しその環境を維持、保全していくことが重要だと思います。重要箇所だと設定された場合、維持するためにどのような取組をしていくのでしょうか。日常生活の中で維持できるのが一番良いと思いますが、なかなか難しいと思います。水田、畑地などで、それを維持していくために農業等を推進していくような取組が可能なのでしょうか。また、緑を残していくために、人の手がある程度必要になるため、ボランティア活動などを推進していく必要があると思いますが、そのような取組が可能なのでしょうか。

回答

資料 4-3 の 18 ページのとおり、生物多様性の保全上重要な場所を設定した上で、市民団体の活動状況や保全活動によって期待される効果の大きさなどを踏まえ、今後、10 年間（次期戦略対象期間）で重点的に保全に取り組む場所を選定する予定です。

具体的な内容は次期戦略のリーディングプロジェクト等として位置付ける予定であるため今後、検討しますが、市民団体や事業者など多様な主体と連携した保全活動の実施を目指しています。

質問等 ⑧

【林委員】

生物多様性の保全上重要な場所は幾つ選んでも良いのでしょうか。また、今までにも生物多様性の保全上重要な場所を設定したことがあるのではないかと思います。具体的にどのようなエリアが選定され、どのような取組によってその環境が維持されたのか、これまでの成功例があれば教えてください。

回答

生物多様性の保全上重要な場所については、資料 4-3 の 18 ページに記載の設定方法のとおり、環境省が生物多様性の保全上重要な場所として選定している区域および自然環境調査地域のうち多様な自然環境が存在する「分類 1」の地域の中から選定する方針としています。

なお、これまで生物多様性の保全上重要な場所の設定をしたことはございません。

市内における具体的な取組の成功例としては、丸山サンクチュアリさんが藤原市民の森緑地及び丸山の森緑地で行っている取組があげられるかと考えます。いずれも、手入れが行き届いていなかった森を市民の方が中心となって、ごみの除去や遊歩道の整備などを行い、良好な森として再生した事例となります。

質問等 ⑨

【林委員】

生物多様性の保全上重要な場所における取組は、10年スパンで考えているようですが、これからはもう少し長い単位でも同時に見据えておく必要もあるのではないのでしょうか。

回答

第2次生物多様性ふなばし戦略の対象期間は10年間を予定していることから、10年間を一つの区切りとして設定しています。ご指摘いただきました、より長期的な視点も鑑みながら、直近10年間の取組を進めてまいりたいと考えています。

質問等 ⑩

【林委員】

St.16 二重川流域（下流）～県民の森周辺（St.5）は2つ含めて保護していくと良いと思います。

回答

生物多様性の保全上重要な場所の設定については、資料4-3の18ページに記載のとおり、今後、地形のつながりや水循環の観点を考慮し具体的な場所の設定を行う予定です。

St.5とSt.16においても同様の検討を行い、重要な場所を設定するため、ご意見を踏まえ検討します。

質問等 ⑪

【林委員】

三番瀬は、干潟の保全によって水生生物が生息・生育できており、多くの渡り鳥が飛来する環境を守るためにも、ぜひとも保全していただきたい場所です。保全にあたって難しい課題もあると思いますが、まずは現状がどのようなものであるかを正確に調査・把握することが必要だと思います。

回答

船橋市自然環境調査検討委員会からの提言においても、三番瀬の環境についてのモニタリングの必要性が指摘されていることも踏まえ、第2次生物多様性ふなばし戦略においては三番瀬の環境モニタリングを位置付け、様々な主体と連携しながら、底生動物等の個体数を確認するモニタリングを実施することを考えています。詳細については、今後検討します。

議題5. 第2次生物多様性ふなばし戦略策定に関わる各種アンケート調査の実施結果について

(1)アンケート調査全般について

質問等 ⑫

【伊東委員】

過去にも同じ設問でアンケートを実施されているのでしょうか。例えば、中高生の意識の変化によって、機会が増えている環境学習の効果を検証することができると思うので、過去の調査結果と比較し、数値がどのように推移しているかを確認したいと考えております。

回答

市民アンケート、事業者アンケート、市民団体アンケートにつきましては、過去にも実施しており、一部の項目については比較によって推移を確認することが可能です。(一部項目について、「資料 3-2 船橋市の生物多様性の現状と課題の資料」に比較した結果を示しました。)

なお、中高生アンケートについては、過去には実施しておらず、今回の調査から実施しています。

質問等 ⑬

【副島委員】

以下のことは個人的な興味が主で、団体代表委員としての意見ではないので、話半分で捉えていただければ結構です。

アンケート設問で「自然」「自然環境」「公園や自然」「緑」という言葉の選択は、専門家が行っており意図して設定していると思われるので、どのような意図で使われているのか知りたいという素朴な疑問です。

資料を見ている限りでは(時間がなくて熟読は出来ていませんが)設問で使われている「自然」「緑」とは放置されたものではなく、人の手によって管理された自然や緑(自治体や公的機関、企業等が管理する市民の森や公園、緑地、あるいは個人で所有する田畑の周辺、山林など)を想定していて、耕作放棄地や空き地、人手の入らない河川周辺のような管理されずに無秩序に雑草が生えているような空間は含まれていないのだろうという印象を持ちました。そう仮定したとき、回答した方の頭の中で生物多様性というイメージは、こうした空間やそこにある動植物は無意識に捨象されているのではないかと想像しております。

また、工業地域や市街地、ビジネス街といった人工物が中心となった地域においても様々な動植物、外来の動植物がそうした人間の営みを利用して生きる姿も事実としてあります。そうした外来種の動植物を好ましくないもの、「自然」から排除すべきものとして意識されてはいないだろうかと思っております。

アンケートを実施する際には、どのような情報を得るか想定していると思っておりますので、

どのような意図で言葉を選択し、設問をクロスさせて、何を得ようとしたのか、望んでいる回答を得たのか、それとも想定していない集計になったのかが気になりました。(あくまでも個人的な興味なので回答は無くても問題ありません)

回答

人の手が入っているか否かに関わらず、緑地や水田、畑、河川など、空間としての自然環境を想定しておりました。また、人工的な土地利用での生物多様性や外来種の捉え方等については、第2次戦略の策定の中で、引き続き整理して参ります。

なお、アンケート調査は、市民や事業者のみなさまの生物多様性や自然環境に対する考え方、取組の状況等を把握し、第2次生物多様性ふなばし戦略の策定にあたっての参考とするため実施したものです。

質問等 ⑭

【副島委員】

市民(24.0%)と事業者(14.2%)の回答率が低いことが気になります。回答するということはある程度この問題に関心があるということと推測します。

その上で、アンケートの目的が「新たな戦略に反映させる」とのことですが、3割にも満たない回答をもって判断材料にして良いのかという疑問が残ります。アンケートをやり直す必要はないと考えますが、このアンケートを判断の根拠とする明確な理由は持っていた方が良いと思います。(開示するかしないかは措いておきます)

回答

アンケート調査は、市民や事業者のみなさまの生物多様性や自然環境に対する考え方、取組の状況等を把握し、第2次生物多様性ふなばし戦略の策定にあたっての参考とするため実施したものであり、なんらかの判断を目的として実施したものではありません。

なお、市民アンケートについては、無作為抽出、郵送でのアンケート調査の場合、有効回答率が30%程度となるとも言われておりますので、傾向を把握するための有効回答数は得られたと考えております。

(2)市民アンケート・中高生アンケートについて

質問等 ⑮

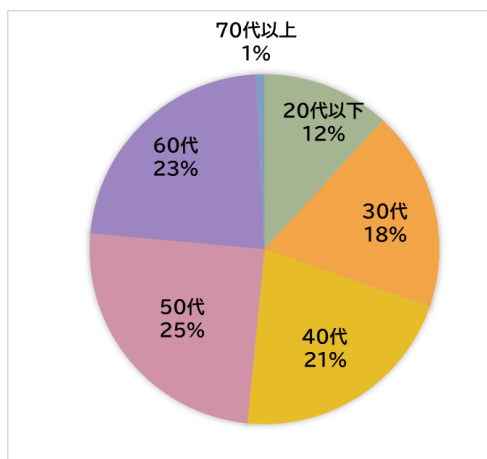
【阿部副会長】

市民アンケートについて、1000人を対象に、5地区別、年代別、男女別にアンケートを依頼し、回収率は24%との記載がございます。この24%の回収状況について、地区別、年代別、男女別の内訳を把握することは可能でしょうか。また、具体的なデータを、そのような属性別で確認できるようにすることは可能でしょうか。

回答

回答者の属性については、年齢、職業、住宅の種類（持家、借家等）を設問項目としています。そのため、年代別の内訳については、確認することが可能です。

なお、回答者の年代別の割合は、20代以下：11.7%、30代：18.3%、40代：21.3%、50代：24.6%、60代：22.5%、70代以上：0.8%となっています。



質問等 ⑯

【阿部副委員長】

市民アンケート及び中高生アンケートにおける、「市が取り組むべきこと（8ページ、14ページ）」の結果を見ると、リーディングプロジェクト②及び③に相当する項目が、20%台の回答率で複数あり、アンケート結果からもその重要性が分かります。

回答

アンケート調査の結果も踏まえ、今後、リーディングプロジェクトの内容等を検討します。

(3)関連アンケート調査について

質問等 ⑰

【阿部副会長】

生物多様性のアンケートと同時に実施された地球温暖化に関するアンケートの詳細な結果データも、環境審議会のメンバーに共有いただくことは可能でしょうか。国が実施している国民の意識調査データと比較してみたいと考えております。

回答

令和7年度に実施した地球温暖化に関するアンケートの集計結果について、電子データにて提供いたします。なお、本データについては令和7年度以前に実施したものとあわせ、市HPで公開しております。

(4)アンケート調査結果を踏まえた今後の対応について

質問等 ⑱

【斎藤委員】

船橋市が取り組んでいる環境基本計画、生物多様性戦略、自然環境調査などの情報が、企業や一般市民へ浸透していないように思われます。各公民館において一般市民を対象とした説明会や勉強会を開催する方向で検討を進めていただけないでしょうか。

回答

環境基本計画については、環境フェアや環境パネル展での展示のほか、環境新聞エコふなばし（市内小中学生全員へ配布）や市公式Xなどでも広報を行っているところです。また、市民・事業者に対するアンケートを2年に1回実施しており、環境基本計画で定めている市民・事業者に求められる行動について把握・周知に努めております。

自然環境調査につきましては、今回新たに作成したパンフレットや紹介動画を活用して、広く情報発信していく考えです。

生物多様性ふなばし戦略につきましても、環境フェアを始め、出前講座などにおいて積極的に情報発信をしてまいります。

(5)生物多様性に関する取組の進捗状況について

質問等 ⑱

【阿部副委員長】

各実施事項において、PDCA サイクルを回していく必要性を感じております。例えば「リーディングプロジェクト②」に関連する「ふなばし生物多様性ハンドブック」についてですが、内容が充実しているためぜひ活用していただきたく、現在の活用状況を伺いたいと考えております。

回答

ふなばし生物多様性ハンドブックにつきましては、出前講座や市民大学校やふなばしエコカレッジでの講座で活用しております。

質問等 ⑳

【阿部副委員長】

「ふなばし環境検定」もリリースから約 1.5 か月が経過しましたが、現在の利用状況（アクセスログ等）はいかがでしょうか。特に、小中学校の環境学習における利活用（ICT 機器）が進んでいるか確認したいです。

回答

「ふなばし環境検定」は難易度別に「標準コース」、「上級コース」として2月中旬から実施しており、4月末現在での実施状況は合計で300件以上の回答をいただいております。そのうち、10代以下の回答が全体の約20%であり、50代に次いで2番目に多く回答をいただいております。また、小中学校への周知を4月中旬頃に行いましたので、これからさらに実施が伸びていくものと考えております。